

# ずいそう

また攻撃が始まった。私がパレスチナに関わるようになったのは、1999年のこと。ガザでボランティアをしたのが、きっかけだった。それから26年。何度、紛争が起きただろう。状況は、ますます酷くなる。現地の友人たちのために祈る。



被害を耳にしては、居ても立ってもいられなくなる。看護師として彼女たちを守る事ができればと、一時は看護専門学校に通ったけれど、あえなく中退。思いついたのが、パレスチナ刺繍だった。パレスチナ刺繍は、花や糸杉、鳥など生活にまつわるモチーフが彩り豊かなクロスステッチで施される美しい伝統工芸品である。母から娘に伝えられるパレスチナの女性

## 彼女たちの刺繍

北村記世実 (パレスチナ・アマル代表)

私たちのアイデンティティの象徴でもあり、失業率の高い現地において、女性たちの貴重な収入源でもある。しかし、日本ではあまり知られていなかった。もったいない。一般に流通させることで、現地の女性たちに貢献できれば。そう思って2013年に起業したのが「パレスチナ・アマル」だ。アマルとは、アラビア語で「希望」。それはガザの女性

たちだけでなく、自分にとっても希望となった。これまでガザが攻撃を受けると、何もできない無力感に苛まれていた。しかし、今は事業を通して、ガザの女性たちのために貢献できる。彼女たちの刺繍を売り、デザインを通して、ガザの現状を伝えることができる。これは私のやり方だ。自己の居る場所、自分のやり方で、ガザにつながってほしい。

## インタビュー

1967年に被爆者の健康診断指定病院だった代々木病院(東京)に就職し、若かった私が被爆者の写真に目を背けてしまったとき、「あなたは

いつでも逃げられるけど、被爆者は被爆者であることからは逃れられないよ」と医師に言われた言葉が、今も忘れられません。以来、被爆者の問診に1000件以上携わってきました。家族にも誰にも話せない体験を病院で話せたことから、被爆証言の活動を始め、「自分ができることは、こういことだ」となる人もいます。



「被爆者のしおり」は無料(水色A4三つ折り)。被爆者の介護問題の解決に向けて発行してきた相談ガイドブック「問答集 介護編」「相談のまど」は頒価各400円 問合せ03-3431-2869

介護保険制度発足後はケアマネジャーとして働き、2016年からは日本被団協の中央相談所の相談員を週1回しながら、全国の講習会で被爆者の介護支援体制について話しています。今でも被爆者健康手帳が欲しいが被爆証明ができないという相談がきます。「被爆さえしなければ…」と思いつつ一生懸命生きていく多くの被爆者に背中を

の提示で利用料負担がないサービスがあることを、当人も介護事業者も知らないケースが多いのです。「被爆者のしおり」は介護保険制度との関係がひと目でわかるようになっていきます。

## 「被爆者のしおり」をすべての被爆者に



日本被団協(日本原水爆被害者団体協議会)

相談員 原 玲子さん

押されて、この活動を続けている気がします。被爆者で被爆者健康手帳を所持している人は全国に10万6825人、平均年齢85・58歳です(2024年調べ)。被爆者の半数以上は地域の被爆者の会に入っていないのではないのでしょうか。介護を受ける人は増えていますが、被爆者健康手帳

このしおりは被団協新聞の読者に届けていますが、「被爆80年の節目に初めて最後の機会」とすべての被爆者に渡そうと昨年話してきました。そのさなかにノーベル平和賞を受賞しました。11万部印刷し、被爆者の会を通じて渡してまいります。

## BOOK

編集部から 女性にうつ(1面)が多いのは、ジェンダーの問題も関わっていることが国内外の各種研究で指摘さ



法務局に勤める野宮薫子は、10歳下の最愛の弟を失い、遺言書により弟の元恋人・小野寺せつなと出会う。ふつきらばうな彼女の料理に癒やされた薫子。時、それでも生き抜かなければならない。その時自分に残されているものは。小説の最後、薫子が生きるためにする選択は、私たちに勇気を与える。2025年本屋大賞受賞作。



反響を呼んだドラマ『虎に翼』を題材に、弁護士太田啓子さんが憲法についてやさしく解説。第一部は、憲法の成り立ちなど、その時から、憲法24条と民法改正などを深掘りしていく。第一部は、男性の登場人物を取り上げ「これから」の男性像を探る。「おかしい」と声を上げた人の声は決して消えない」など名台詞、場面、注釈も満載。ドラマを見ていない人にも読みやすく、著者のドラマと憲法への愛が伝わる。

## カフェ

阿部暁子

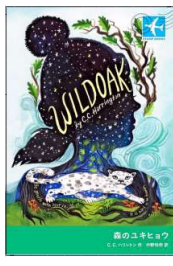
## 100年先の憲法へ

太田啓子

## 代田知子さんおすすめの子どもの本 大人もぜひ!



ライオンのあしたのいちにち あべ弘士 作 (幼児～)



森のユキヒョウ C.C.ハリントン 作 中野怜奈 訳 (中学生～)



もっと手話ではなそうしゅわしゅわ村のはじめてのおつかい くせさなえ 作・絵 (幼児～)

まずは、絵本『ライオンのあしたのいちにち』から。子どもたちとの散歩と俳句が大好きなライオンとうさんが、アフリカの大地をのんびりとゆく。ダチョウやジュレヌクやキリンに出会い、大木の下で子どもと一緒に昼寝。随所で俳句を読み、悦に入るとうさんライオンが愉快で楽しい。ダイナミックで見事な絵。広大なアフリカを満喫できる絵本だ。

2冊目は、『森のユキヒョウ』。吃音があり人とうまく話すことができない少女マギーは、周囲に理解してもらえず傷ついていた。マギーは祖父の家に預けられ、不思議な力を持つ太古の森の中で、飼い主に捨てられたユキヒョウの子と出会う。祖父に伝えようとするがうまく話せない。

マギーは餌を運び、見守り続ける。異にかかったユキヒョウも一人で救うしかない。でも、もう無理だ。村人に見つかった。森も伐採されそう。マギーは、ユキヒョウを守れるのか?—ぐいぐい引き込まれ、一気に読んだ。マギーの勇気と、よき理解者である祖父の姿が心に残る。

最後は『しゅわしゅわ村のはじめてのおつかい』。男の子が一人でお使いに出かけて帰るまでの会話を、手話で紹介する。「いつてきます」「きをつけてね」。友だちに会って「こんにちは」「またね」。絵の中の手話のイラストを見て、同じしゅわしゅわ村の子と、ちょっとだけ手話ができるようになる。手話の詳しいやり方、指文字、国際手話の説明も付く。